10 皮子平 かわごだいら

天城の自然が凝縮された、とっておきの秘境

車は通行止めのため車利用の場合は、ここ駐車して歩くことになる。ここから皮子平まで約8㌔ある。

簡易舗装された道を少し上ると最初の**林道分岐**。真っすぐ行くのが筏場林道。車止めのある右は**軽石林道**。**筏場林道**はどちらかと言うと谷筋のコースで軽石林道は尾根筋のコース。どちらを行っても距離・時間に大差ない。ここでは筏場林道を行く。

未舗装の単調な林道であるが、新緑の季節や紅葉の季節には、その美しさに目を奪われる所がある。唐沢橋、富士見橋（ゲートから約4㌔地点）などの橋がチェックポイントになるので注意して歩こう。

軽石林道と合流する三差路（ゲートから約5㌔）辺りから晴れていれば富士山が望める。

分岐を左に折れると、すぐにかつての軽石の採石所跡の広場。すぐ上に**戸塚歩道の入口**がある。帰りはここに帰ってくる。

林道を更に上る。戸塚林道を左に見送り、なおも進むと棚沢橋の手前の広場に出る（ゲートから約7㌔）。橋を渡った左に道標。皮子平まで30分とある。

間伐されたヒノキがそのまま放置されている林を通り、涸れた棚沢を渡ったら右へと登る。樹林帯を道なりに登るとスギ林になり道が緩やかになると左下に水溜りが見える。通称「幻の池」と呼ばれ、イノシシのヌタ場となっている。

周辺の岩が緑色に苔蒸し、かつての炭焼き窯跡も目につく。

ロープ柵が見られるようになると皮子平だ。前がパッと開け、明るい平地に出る。**西皮子平**である。

かつての皮子平火山の噴火口の一つで、周囲は樹木に囲まれて丸く窪み、アセビやカマツカ、ミヤマイボタなどの小潅木が生えている。初夏に訪れると、西皮子平を囲む山肌にはマメザクラが咲く。

シカの防護柵を右に見て進むとブナやヒメシャラ、カエデなどの樹林帯に入る。相変わらず苔蒸した岩が多く、ロープ柵に導かれて道なりに進むとブナに混じってヒメシャラの若木の見事な林が続いている。

その先に天城が誇るブナの巨木があり、この辺りが**東皮子平**である。三差路で右へ20分ほど登ると**天城縦走路**の戸塚峠。左に**戸塚歩道**を行く。ロープ柵はすぐになくなるので、踏み跡をよくみて歩こう。やがてスギ・ヒノキの鬱蒼とした林となる。

スギ林の中に、ひときわ太くて立派な巨木・精英樹がある。**精英樹**とは、すぐれた特性を持つ優良樹のことで、天城山中の植林されたスギは、この精英樹から採ったタネから生まれたものである。

アマギシャクナゲが目立つようになると炭焼窯跡がいくつかあり、スギ林を抜けると前に見送った林道の**戸塚歩道**入口に出る。「筏場新田9㌔　戸塚峠2㌔」の道標がある。

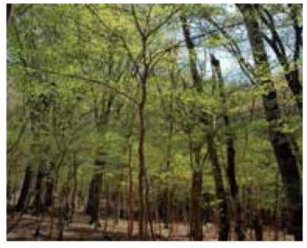
帰りは前に歩いた筏場林道を下るかまたは軽石林道を下ってもいい。ほぼ一本道で分岐さえ間違えなければ筏場新田に出る。国土地理院の2万5000分の一の地図は必携だ。

皮子平へのルートは、二つある。一つは筏場新田から筏場林道を経由する（往復約20㌔、約7時間20分）ルート。二つは八丁池口から（往復約5時間15分）のルート。

❶筏場新田からのルート

距離・時間共に長く、陽が短い季節にはとてもキツいコースである。年間を通じて、このコースを利用する人は少ない。コース上には道標が数ヶ所しかないので地図を頼りに歩かなくてはならない。

修善寺駅から**筏場新田**行きのバスで28分、終点で下車。県道を上がり小嵐橋から左に**筏場林道**に入る。舗装された道を右・左にわさび田を見ながら上って行く。**御礼杉**の所に車止めのゲートがある。バス停から約2㌔の地点。一般

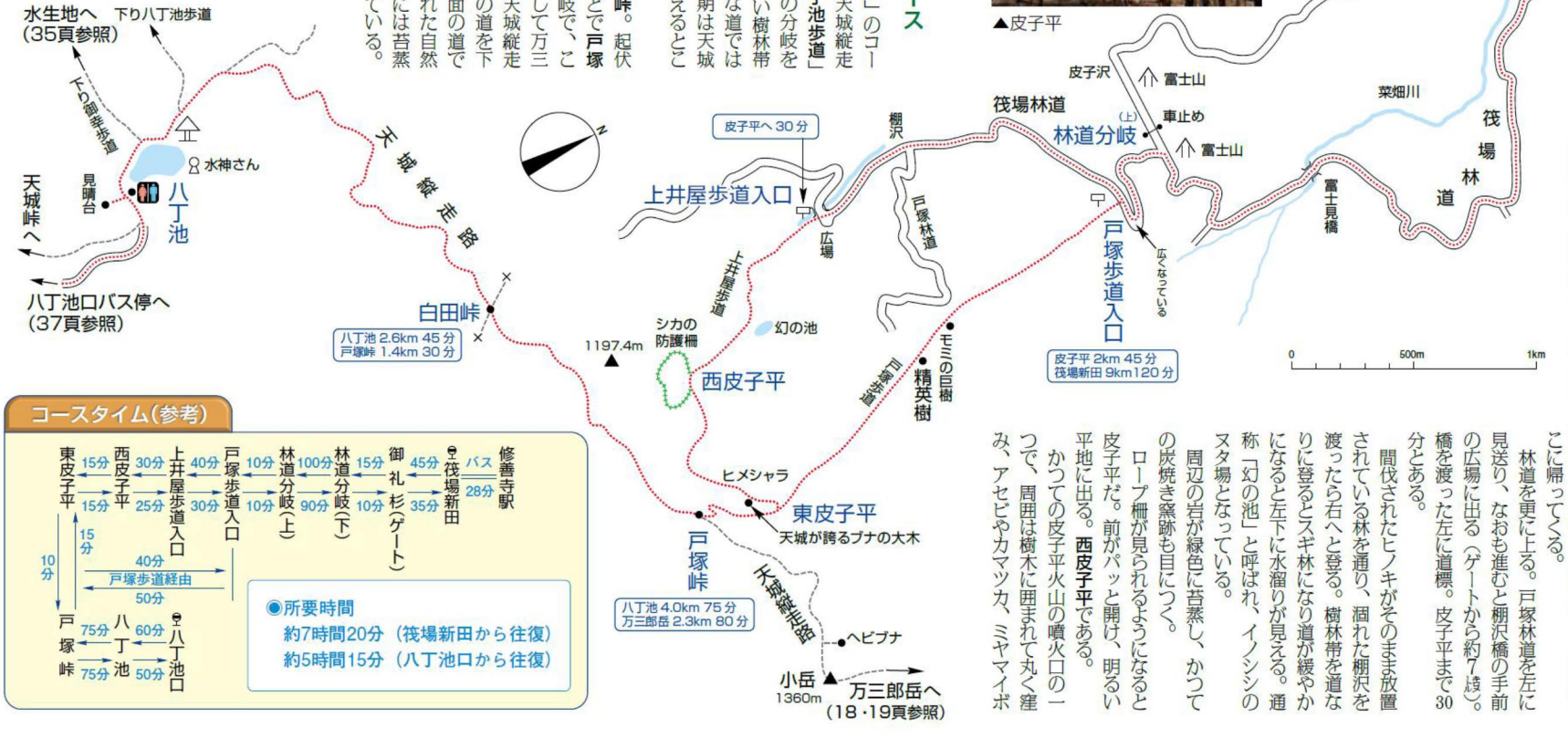

▲皮子平

❷八丁池口からのコース

37頁「**野鳥の森～八丁池**」のコースを利用して八丁池へ。天城縦走路に入り、左に「**下り八丁池歩道**」の入口を見送る。与市坂の分岐を見、ブナやヒメシャラの深い樹林帯の平坦な道を行く。単調な道ではあるが、新緑・紅葉の時期は天城らしさの自然が十分味わえるところである。

八丁池から45分で**白田峠**。起伏の少ない道は更に30分ほどで**戸塚峠**。ベンチが置かれた分岐で、このまま進めば小岳を経由して万三郎岳・万二郎岳へ向かう天城縦走路である。皮子平へは左の道を下る。皮子平の火口壁の斜面の道でブナやヒメシャラに覆われた自然林である。自然林の斜面には苔蒸した岩がゴロゴロ転がっている。峠から15分で東皮子平の分岐。真っすぐ行くと戸塚歩道で筏場林道への道。❶参照。

❶とは逆に天城が誇るブナを見て、ヒメシャラの若木の林から樹林帯を西皮子平へ。ゆうなれば西と東の皮子平を探索して八丁池へ戻るコースである。時間に余裕があれば戸塚歩道にあるスギの精英樹を見てきたい。



コースタイム(参考)

◉所要時間
約7時間20分（筏場新田から往復）
約5時間15分（八丁池口から往復）